

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4676100235号		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム 隼人		
所在地	鹿児島県 霧島市 隼人町 3630番地 3 (電話) 0995-64-2520		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年4月11日

【情報提供票より】 (21年2月28業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	29 人	常勤 6人, 非常勤 23人,	常勤換算27.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋及び2階建て造り		
	平屋及び木造2階建て 1～2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均日額)	1,200 円	その他の経費(日額)	250 円
敷金	有( ) 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		850 円	

### (4) 利用者の概要 ( 2 月 28 日現在 )

利用者人数	27 名	男性 9 名	女性 18 名
要介護1	4名	要介護2	6名
要介護3	11名	要介護4	5名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 89 歳	最低 80 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	隼人温泉病院・吉満内科クリニック・中島歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉の町の緑に囲まれた住宅地にあり、ホームのお風呂は神経痛や肩こり等々に効能がある温泉で、リフト浴も設置され、入居者はいつでも温泉浴を楽しむことができる。医療連携による健康管理体制があり、体調不良等の早期発見や早期対応に取り組んでいる。老人会や子供会との交流など地域住民との関係も築かれ、ドライブや外食など利用者に家庭的な雰囲気味わらせるよう工夫している。入居者の笑顔を励みに、職員は明るく毎日のケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しについては支援経過やモニタリングを基に期間に応じて見直しをしている。状態変化時は再アセスメントを実施し現状に即した介護計画書を作成して改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について、管理者が作成し責任者会議やユニット会議で話し合い、職員各々の気づきについて検討した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催して、ホームの状況や入居者の様子など報告し、話し合いをしている。地域住民との付き合いについての意見が出て、老人会の定例会をホームで開催するなど、交流につなげることができた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に家族の要望や意見など聞くように努め、年2回開催する家族会の時意見や不満・苦情など聞く機会を設けている。要望や意見はユニットで話し合い、改善するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時の挨拶をはじめ、保育園の運動会への参加や老人会や子供達を招待してのバーベキューを囲んだ交流会を開催したり、中学生の体験学習の受け入れなど地域の人々と交流することに努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が馴染みの地域で安心して暮らしつづけることを支えていくサービスとして、地域との関わりを大切にした内容の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、職員会議やユニット会議等で理念について話し、確認して共有している。理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の挨拶をはじめ、保育園の運動会への参加や、老人会や子供達を招待してバーベキューを囲んだ交流会を開催したり、中学生の体験学習の受け入れなど地域の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成し、責任者会議やユニット会議で話し合い、職員各々の気づきについて検討が行われている。また外部評価については運営推進会議で報告され、意見をもらって介護の質向上に活かすようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催して、ホームの状況や入居者の様子など報告し、話し合いをしている。地域住民との付き合いについて意見が出て、老人会の定例会を開催してもらうなど、交流につなげる取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の対応について相談・助言をもらう等、折にふれ市担当者と連携を図っている。入居者のサービス向上にともに取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日常の様子や職員の紹介など話したり、利用料請求時に個別の近況と写真を同封し報告している。健康状態などは電話で報告し、面会時に金銭出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の要望や意見など聞くように努め、年2回開催の家族会のとき意見や不満・苦情など聞く機会を設けている。要望や意見はユニットで話し合い、改善するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内やユニット間の異動は最小限に抑えるよう努力している。離職時は引継ぎを入念に行い入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は順番に参加し、研修報告を勉強会で伝達し、研修内容を共有している。資格取得のための勉強会を法人で開催するなど、職員を育てる取り組みを実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の研修会や事例検討会、市の行事等で同業者と交流の機会があり、交流を通してサービスの質向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学・説明をし、管理者は入居予定の方を介護老人保健施設や病院・自宅に訪問し面談を行い、納得して入居できるよう支援している。家族と相談し何時でも面会に来てもらい徐々に馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として尊敬の気持ちで支えあいながら生活を共にしている。梅干などの保存食や灰汁巻き等の行事食など教えてもらいながら一緒に作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が日常生活の中での言葉やしぐさ等に注意しながら、思いや意向に気づき、把握するように努めている。ケアを行う時本人の意志を尊重して行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望や意見を聞き、申し送りやユニットミーティングで状態を把握し、職員と話し合っって意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援経過やモニタリングをもとに、介護計画書の期間に応じて見直しを行っている。状態変化時は再アセスメント等行い現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により24時間の健康管理や、受診・通院介助・自宅訪問・墓参り・外出・外泊について、柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する主治医の受診を支援している。定期的な訪問診療や通院介助などで適切な医療を受けられるよう支援し、受診結果は随時電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの看取りの方針を文書化し、家族会等で説明して確認を行っている。職員は方針について勉強会で話し合い共有している。病状により主治医と関係者で話し合いをして方針を確認している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねる事のないよう法人内で研修を行い職員に徹底している。採用時に、個人情報保護の理解や情報の漏洩について誓約書を取り、秘密保持の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決めているが、起床や食事・入浴時間など一人ひとりのペースを尊重し、体調や希望にそってその人らしい暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞いたり、季節感を大切にした献立で、下ごしらえや片付けなど、できる事を手伝って貰い、好みや力を活かしながら、さりげなく介助して一緒に食事をしている。外食の機会も作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームの風呂は、神経痛や肩こり等に効果がある温泉で、いつでも入浴することができる。本人の体調や希望を確認しながら、リフト浴も設置され、温泉浴を楽しめるように会話をしながら支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや野菜の下ごしらえなどの役割の他、新聞を読んだり音楽やテレビ鑑賞・体操・レクリエーションなどの楽しみや法人行事への参加など気晴らしの機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や菜園での野菜づくり、東屋でのお茶など戸外で過ごすように工夫している。ドライブや買い物など外出の機会も支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけることの弊害を理解し、見守りや声かけを工夫し、近隣住民の協力もあり、安全に配慮しながら日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署や地域住民の参加を得ての合同訓練の他、毎月、事業所独自に通報訓練や一時避難訓練等実践的な訓練を行っている。災害に備えカセットコンロも準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し、毎月体重測定も実施し、栄養状態を把握している。バランスについて、法人の栄養士のアドバイスをもらい、刻みやとろみ食など一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口には季節の花が飾られ、台所やホールから庭を見ることができ、室内は明るい。食堂のテーブルや畳コーナー、ソファが配置されており、生活感と家庭的な雰囲気があり、居心地よい生活空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して使い慣れたテレビや椅子・ラジオ・目覚まし時計・ぬいぐるみ等持ち込み、又、写真やポスターなど飾り、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。